

各県別海事産業の経済学－岡山県－

掲載誌・掲載年月：日本海事新聞 201508

日本海事センター企画研究部

海事図書館長 鶴田 清

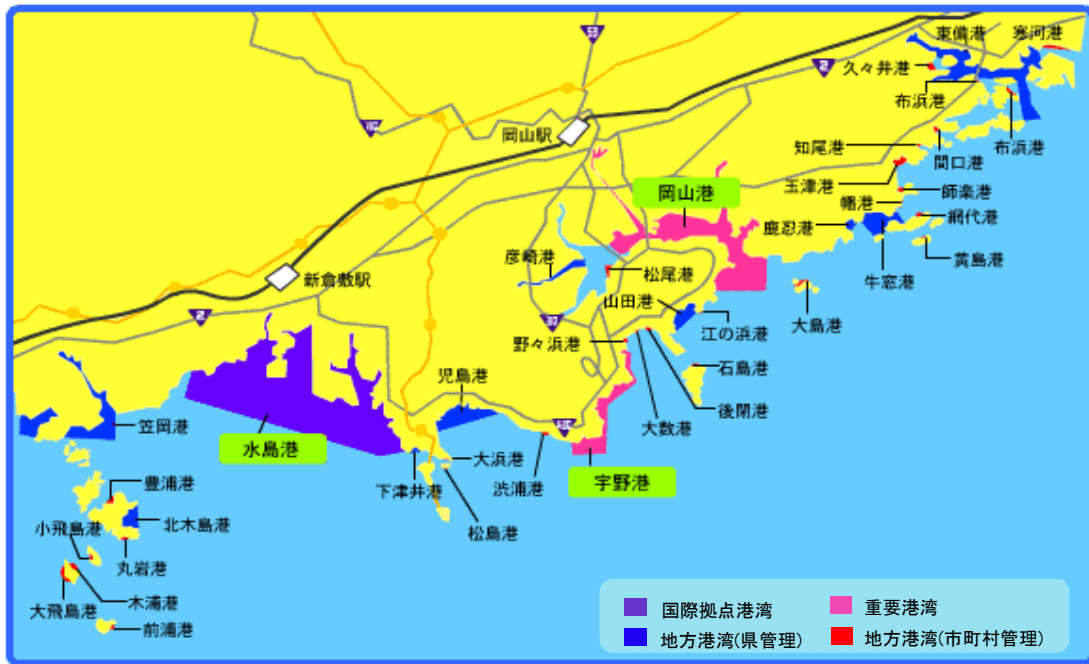
岡山県を含む1府10県に跨り日本一広大な規模を誇る瀬戸内海国立公園は1934年3月16日に雲仙や霧島とともに日本初の国立公園として指定され、昨年80周年を迎えた。岡山県の海は瀬戸内海の中央部に位置し、古くから白砂青松の地として知られ、多くの島々を内包する瀬戸内海特有の穏やかな景観と美しい砂浜は、その大部分が瀬戸内海国立公園に指定されている。代表的な場所としては、同国立公園随一の景勝地で国の名勝にも指定されている鷲羽山や日本のエーゲ海の異名を取る牛窓、生きた化石といわれるカブトガニの棲息で名高い笠岡湾などがある。

1. 県勢

岡山県は「晴れの国おかやま」を県の標語に掲げているとおり晴れの日が多く、年間の降水量1ミリ未満の日数が全国一。面積は7,113平方キロメートルで全国17位。海岸線総延長は約537キロメートル。県内の人口は192万人で全国21位に当たる。2012年度の県内総生産は7.06兆円で、第3次産業の割合が最も高い。桃やぶどうの特産地「フルーツ王国」として知られるだけあって、清水白桃、マスカット・オブ・アレキサンドリア、ピオーネをはじめ、ジャージー牛、黄にら、学生服などで全国一の生産高を誇る。

2. 港湾

岡山県には国際拠点港湾の水島港、重要港湾の宇野港、岡山港をはじめ、県が管理する地方港湾が7港、市が管理する地方港湾が28港、漁港が27港ある。



(出所：国土交通省中国地方整備局宇野港湾事務所ホームページ)

(1) 水島港

高梁川の河口部に位置する水島港は水島地区と玉島地区からなる。水島港の原型は旧玉島港にあり、玉島の地名は古く万葉の歌に由来するといわれ、近世には備中松山藩(現高梁市)の外港として北前船や高瀬舟などで賑わう、瀬戸内を代表する港として繁栄してきた。一方、水島地区は、戦前、漁業と干拓農業を主とする農漁村だったが、県は工場を誘致することで農業県から工業県への脱皮を図るため、1943年に三菱重工業株式会社水島航空機製作所(現三菱自動車工業株式会社水島製作所)を誘致した。1960年に水島港に旧玉島港が併合され、重要港湾に指定された。2003年に特定重要港湾に指定され、11年には特定重要港湾から国際拠点港湾に変更されるとともに国際バルク戦略港湾にも選定された。

水島コンビナートを擁する生産拠点の水島地区

岡山県の製造品出荷額が8兆円に対し、水島港は4兆円で岡山県の半分を担っている。水島港に隣接する水島コンビナートには、三菱自動車工業水島製作所のほかに、粗鋼生産量で全国3位のJFEスチール株式会社西日本製鉄所、原油処理能力で全国1位のJX日鉱日石エネルギー株式会社水島製油所、光学用ポリアルフィルムで世界1位の株式会社クラレといった企業が名を連ねる。製造業以外にも、輸入穀物専用の倉庫(サイロ)会社のパシフィックグレーンセンター株式会社西日本支店や、パナマックス型ばら積み船が着岸できる専用岸壁を保有する、輸入原料の取扱基地を中心とした総合物流会社の瀬戸埠頭株式会社といった企業も立地している。

物流拠点として整備が進む玉島地区

玉島地区では、現在、玉島ハーバーアイランド(人工島)の造成・整備が進められており、国際コンテナターミナルや工業用地の一部が供用されている。2001年にはFAZ(輸入促進地域)にも指定され、物流を中心とした新しいまちづくりが進められている。玉島ハーバーアイランド6号埠頭にある水島港国際コンテナターミナルは県内で初めての外国貿易専用の本格的コンテナターミナルで、02年に供用を開始した。現在、1万総トンのコンテナ船が着岸できる水深10メートルの岸壁2バース(延長240メートル)と13年に供用を開始した3万総トンのコンテナ船が着岸できる水深12メートルの耐震岸壁1バース(延長240メートル)にガントリークレーン3基を備えている。当初、内貿ユニットロードターミナルとして整備を行い、現在は国内用の自動車専用埠頭となっている4号埠頭とともに、岡山県、倉敷市、日本政策投資銀行、民間企業13社が出資する第3セクターの水島港国際物流センター株式会社が港湾運営会社として管理運営している。港湾運営会社による管理運営は全国で18港ある国際拠点港湾の中で水島港が最初である。

2013年の入港船舶数は3万3,096隻(外航3,671隻、内航2万6,632隻、その他2,793隻)、8,774万総トン(外航6,343万総トン、内航2,301万総トン、その他131万総トン)で、海上保安庁が公表している20トン以上の船舶の入港隻数では水島港は全国1位。貨物取扱量は8452万トン(前年比2.0%増)。64%が外貿で、そのうち83%を輸入が占める。主な輸入品は鉄鉱石(35%)、原油(28%)、石炭(15%)、輸出品は鋼材(28%)、化学薬品(18%)、鉄鋼(16%)。内貿は65%が移出、35%が移入で、主な移入品は石灰石(19%)、重油(13%)、化学薬品(13%)、移出品は石油製品(28%)、鋼材(21%)、重油(16%)である。貨物取扱量は、以前は全国6位の取扱量を誇っていたが、現在は10位となっている。

(2) 宇野港

宇野港は岡山県の中南部、瀬戸内海のほぼ中央部に位置しており、宇野地区、田井地区、玉地区、日比地区からなる。1909年に鉄道連絡船のターミナルとして竣工。翌10年に旧国鉄宇野線が開通し、同時に宇野・高松間の連絡船航路(宇高連絡船)が開かれ、以来、本州と四国を結ぶ連絡港としての役割を担ってきた。1950年に岡山県が港湾管理者となり、翌51年に重要港湾に指定された。1960年に隣接の日比港を併合した。88年に瀬戸大橋の完成と同時に宇高連絡船が廃止されたことや、高速料金とフェリー料金の逆転により軒並みフェリーの便数が減っていき、貨物取扱量は右肩下がりになっている。代わりに県が力を入れているのがクルーズ船で、宇野地区の第1突堤に3万総トン級の外航旅客船が着岸できる全長280メートル、水深10メートルの大型客船バース(クルーズ・ポート・ウノ)を整備し、2006年に供用を開始した。近年、宇野港は岡山県の防災拠点としての港に位置付けられ、大型客船バースは大規模地震時における緊急物資輸送にも対応できる耐震強化岸壁となっている。

2013年の入港船舶数は2万6,249隻(外航125隻、内航8,740隻、フェリー1万7,146

隻、その他 238 隻)、2,117 万総トシ (外航 143 万総トシ、内航 540 万総トシ、フェリー1,388 万総トシ、その他 45 万総トシ)。貨物取扱量は 1,771 万トシで前年比 18.4%減少した。そのうち 93% は内貿で、移入の 90%、移出の 85%をフェリーで輸送された車両が占める。

(3) 岡山港

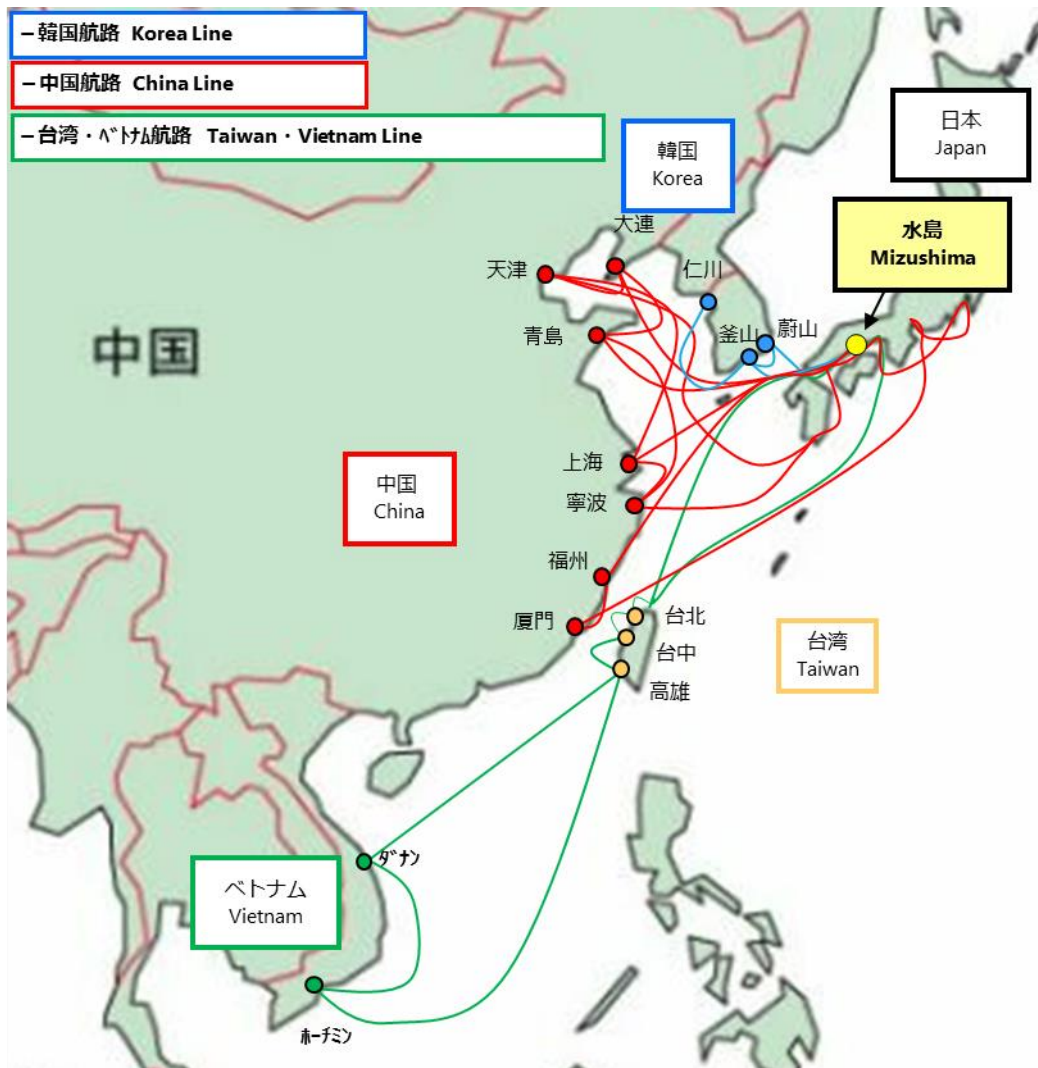
岡山港は児島湾にそそぐ旭川、吉井川の河口部に位置し、県都岡山市を背後に擁する。1573 年に宇喜田直家が岡山城を築城以来、旭川下流の京橋 (現岡山市) 付近は海運の要として活況を呈しており、旭川河口の西側に位置する福島地区では昭和初期から埋め立てによる工場の造成が行われ、現在は化学工業などを中心とした岡南 (こうなん) 工業地帯の中核として重要な役割を果たしている。1964 年には吉井川下流の西大寺港と幸島港、児島湾入口の小串港を合併し、同年に重要港湾に指定された。高島地区 (新岡山港) は小豆島へのフェリー・高速艇の基地や瀬戸内クルージングの母港として観光面で注目を浴びている。

2013 年の入港船舶数は 7,072 隻 (外航 8 隻、内航 2,335 隻、フェリー4,720 隻、その他 9 隻)、497 万総トシ (外航 1 万総トシ、内航 79 万総トシ、フェリー417 万総トシ、その他 0.2 万総トシ)。貨物取扱量は 301 万トシで前年比 5.5%減少した。そのうち 99.6%は内貿で、移入の 39%、移出の 76%をフェリーで輸送された車両が占める。

3. 海運業

(1) 外航海運

外貿コンテナ航路は、現在、水島港から韓国、中国、ベトナム、台湾の 3 か国 1 地域にフルコンテナ船による定期航路が開設されており、18 航路、週 19 便が運航している。今年の 1 月に南星海運株式会社 (Namsung Shipping Co.,Ltd.)、3 月にカメラライン株式会社が立て続けに韓国の新規航路を開設した。韓国航路は天敬海運株式会社 (C.K.Line Co.,Ltd.)、高麗海運株式会社 (Korea Marine Transport Co.,Ltd.)、汎洲海運株式会社 (Pan Continental Shipping Co.,Ltd.)、興亜海運株式会社 (Heung-A Shipping Co.,Ltd.)、長錦商船株式会社 (Sinokor Merchant Marine Co.,Ltd.) の 5 社に南星海運とカメララインを加えた 7 社がサービスを提供している。中国航路は神原汽船株式会社、民生輪船有限公司 (Minsheng Shipping Co.,Ltd.)、吉舟船務有限公司 (Ji Zhou Shipping Co.,Ltd.)、の 3 社がサービスを提供している。そのほかに、ワンハイラインズ株式会社 (Wan Hai Lines Ltd.) が台湾・ベトナムにサービスを提供している。



(出所：岡山県土木部港湾課提供)

外貿コンテナ貨物取扱量は2004年まで右肩上がり増加して10万TEUを超えた後、10万TEU前後で増減を繰り返しており、13年は前年比6%増の10万9,274TEU（輸出5万5,533TEU、輸入5万3,741TEU）だった。航路別では中国が4%減の4万7679TEU、韓国が27%増の4万3,753TEU、台湾・ベトナムが4%増の1万7,842TEU。主な品目は輸出が合成樹脂・化学工業品、化学薬品、産業機械、鋼材で、輸入が日用品、衣服・身廻品・はきもの、合成樹脂・化学工業品、化学薬品となっている。

(2) 内航海運

2013年3月現在の岡山県の内航海運登録事業者数は69である。内貿定期コンテナ航路は水島港に寄港する神戸港フィーダーと沖縄航路があり、神戸港フィーダーは株式会社ユニエックス、井本商運株式会社、オリエン特・オーバーシーズ・コンテナライン・リミテッド

日本支社、西日本内航フィーター合同会社の4社が、沖縄航路は南日本汽船株式会社の1社がそれぞれサービスを提供している。また、宇野港には RORO 船による内貿定期航路があり、日本通運グループの日本海運株式会社、商船三井フェリー株式会社、大王海運株式会社の3社がサービスを提供している。

(3) 旅客船・フェリー

2014年4月現在、岡山県の旅客船事業者数と航路数は一般旅客定期航路事業が11事業者、13航路、特定旅客定期航路事業が1事業者、1航路、旅客不定期航路事業が18事業者、28航路である。島の過疎化・高齢化でフェリーの需要は減っている。

県内最大手の両備フェリー株式会社は、旅客船業界が需要の減少や人材不足で厳しい状況にある中で、様々なアイデアで苦境を乗り切ろうとしている。そのひとつが、フェリーを利用して小豆島に渡り、風光明媚な景観をサイクリングとともに楽しんでもらう「ツール・ド・小豆島オリーブサイクリング」。昨年4月6日に瀬戸内海国立公園指定80周年記念イベントとして第1回を開催。春と秋の年2回開催しており、参加者の評判はよく、リピーターも多い。また、JR九州の「ななつ星 in 九州」のデザインを手掛けた水戸岡鋭治氏が両備グループのデザイン顧問をしている関係もあって、全室スイートの豪華客船で瀬戸内海を楽しんでもらう「海の七つ星プロジェクト」を立ち上げ、3年後の2018年の就航を予定している。

4. 造船業

県内には三井造船株式会社玉野事業所とサノヤス造船株式会社水島製造所の2つの大きな造船所がある。三井造船玉野事業所は三井造船発祥の地であり、1917年に三井物産株式会社造船部として岡山県児島郡日比町玉（現玉野市）で創業した。艦艇、官公庁船、商船の建造を主とした艦船工場部門と船用ディーゼルエンジンの製造を主とした機械工場部門の2本柱で操業を行っている。サノヤス造船水島製造所は船舶の建造、改造、修繕を行う同社の主力工場で、船大工を志した佐野川谷安太郎が1911年に大阪市に設立した佐野安造船所が、その後合資会社を経て1940年に佐野安船渠株式会社となり、同社の水島造船所として1974年に操業を開始した。水島製造所の特長は新船建造の生産力向上のために採用している「3ステージ制建造法」で、ドックは最大8万総トンの新造船建造能力がある。

5. 船用工業

県内に船用工業事業所は前述のディーゼル機関を製造している三井造船玉野事業所を含め5社6事業所ある。船用推進機器の総合メーカーのナカシマプロペラ株式会社は船舶用プロペラで国内シェア約80%、世界シェア約30%の世界トップメーカー。1926年に岡山市に中島鑄造所として創業し、岡山市に本社工場と水島港に玉島工場を構える。直径およそ20センチの小型から12メートルにおよぶ超大型まで様々な形や大きさのプロペラをはじめ、可変ピッチ

チプロペラ、スラスタ、電気推進システムなど、バリエーション豊富な推進機器を提供している。また、プロペラづくりで培った技術を活かして水質改善という環境保全分野や人工関節といった新分野にも進出。2005年に第1回「ものづくり日本大賞」内閣総理大臣賞を受賞している。そのほかに、船用エンジン用カムの世界シェア60%の株式会社ショウエイ、船用ディーゼル機関部品を製造している株式会社宮原製作所、造船用伸縮継手の国内シェア約9割を誇る宇野工業株式会社などがある。

6. 曳船・水先人・海事代理士

曳船事業者は水島港に川崎汽船グループの日東タグ株式会社と株式会社シーゲートコーポレーション水島支店、日本郵船グループの内海曳船株式会社水島事業所と三洋海事株式会社中国支店、早駒運輸株式会社瀬戸内事業部水島事業所、日本海事興業株式会社、砂田船舶株式会社、宇野港にパンパシフィック・カップー株式会社が100%出資する栄吉海運株式会社海運部や植田曳船運輸株式会社などがある。

水先人は関門海峡および大阪湾を除く瀬戸内海全域を対象とした内海水先区の水先人が水先業務に従事している。内海水先区水先人会の本部は神戸市にあり、県内には水島に連絡事務所がある。2013年4月1日現在、144人の水先人が在籍しており、12年の水先実績（内海水先区全体）は3万544隻、13億1,227万総トン。

海事代理士は、2015年6月30日現在、県内に事務所を置く日本海事代理士会の会員が4人いる。

7. 船員教育・育成機関

かつて旧運輸省に附属して設置されていた海員学校のうち、1939年7月の「海員養成所官制」の公布と同時に全国で最初に設置されたのが岡山県の児島海員養成所（設置当時は通信省所管）であるが、2009年に廃止された後、現在に至るまで県内には海洋・水産系の教育機関はない。

8. おわりに

今年で19回目を迎えた海・港・船をテーマにした「たまの・港フェスティバル」が5月16・17日に宇野港で開催された。初日は生憎の雨模様だったものの2日間で昨年を上回る9万3千人が来場した。様々なイベントが催された中で、子供が海上でモーターボートを操船する「スーパーキッズボート体験操船会」は午前中にチケットが完売するほど大人気であった。このような体験を通じて、将来、船乗りを志す若者が増えることを期待したい。